

第6次西栗倉村総合振興計画

生きるを楽しむ 百年の森林に育まれたむら



令和3(2021)年6月

「第6次西栗倉村総合振興計画」策定にあたって

中国山地の山あい岡山県最北東端に位置する西栗倉村は、江戸時代から参勤交代に使われた因幡街道沿いにあり、明治22（1889）年に現在の村が形づくられてからは、単独自治体として現在に至ります。平成の大合併でも単独自治体として残ることを選択し、平成20（2008）年に「百年の森林構想」に着想し、戦後、子や孫のためにと植林された人工林が財産価値を失い放置されつつある中、もう50年村が責任を持って森林を整備し、「百年の森林に囲まれた上質な田舎」を実現するため、第1次産業である林業を主軸に地域再生への道を歩み出しました。

その後、環境モデル都市の選定、「ローカルベンチャースクール」の開始、SDGs 未来都市の選定等、持続可能な未来に向けて進んでまいりました。これらの取組は、着実に人口減少を抑制する流れとなっており、今では、移住者も増え、その数は人口の約15%になります。

一方、気候変動影響の顕在化や依然とした人口減少・少子高齢化による多様な人材の不足、新型コロナウイルス感染拡大を契機とした過度なグローバル経済のひずみ、厳しい財政状況など、持続可能な未来の形成に向けてまだまだ多くの課題があり、そのためのチャレンジが必要です。

また、全てのあらゆる国、主体が2030年までの長期的な開発目標として掲げたSDGs（持続可能な開発目標）では、「誰一人取り残さない」ことを目指し達成すべき目標が構成されており、本村においても重要な視点と考えています。

これらの課題に向けて、西栗倉村に関わる全ての人々が協働し、「生きるを楽しむ 百年の森林に育まれたむら」づくりを進めていくため、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と「西栗倉村総合振興計画」を一体的な「第6次西栗倉村総合振興計画」として策定いたしました。

本総合振興計画は、西栗倉村の将来の指標を設定し、その目標を実現するための計画であり、村の行財政運営の基本的な指針となるものです。

最後に、本計画の策定にあたりまして、アンケートやワークショップ等で幅広くご意見、ご助言をいただきました村民のみなさまをはじめ、慎重にご審議をいただき答申を賜りました西栗倉村総合振興計画審議会のみなさまに心からお礼申し上げます。

西栗倉村長 青木 秀樹

目次

基本構想

第1部 はじめに	1
第1章 計画の策定にあたって	2
第1節 計画策定の趣旨	2
第2節 計画の位置づけ	2
第3節 計画の構成と目標年次	2
第2章 計画策定の背景	3
第1節 むらの歩みと概況	3
第2節 時代の潮流	6
第3節 むらづくりへの思い～アンケート、WSより～	8
第4節 むらの課題	23
第2部 基本構想	25
第1章 むらの未来像	26
第1節 むらづくりの基本理念	26
第2節 むらの未来像	26
第3節 分野ごとのビジョン	27
第4節 人口の将来展望	29
第2章 むらづくりの基本方針	32
第1節 施策体系	32
第2節 SDGsの推進	33
第3節 将来像の実現に向けて	34

基本計画

第1部 重点戦略	37
第1章 重点戦略の位置づけ	38
第2章 重点戦略	39
第2部 分野別計画	41
第1章 最後まで自分らしく生きるを楽しむ むらづくり	42
1-1 健康に過ごし続けるための備え	42
1-2 魅力的な子育て環境づくり	44
1-3 誰もが暮らし続けられる環境づくり	46
1-4 医療体制などの充実	48
第2章 全ての村民が笑顔になる未来志向の むらづくり	50
2-1 社会とつながるきっかけづくり	50
2-2 スポーツに出会う環境づくり	52
2-3 文化に触れ、継承する環境づくり	54
2-4 質の高い学校教育の推進	56
第3章 地域の魅力を誇りにつなげる むらづくり	58
3-1 地域の農業を支える環境づくり	58
3-2 林業の振興と森林の多様化と価値最大化	60
3-3 地域の光を魅せる取組推進	62
3-4 地域経済循環を生み出す商工業の推進	64
第4章 多世代・多様な人が暮らし続けることができる むらづくり	66
4-1 交通基盤の整備と持続可能な維持管理	66
4-2 長く住み続けることができる環境づくり	68

4-3 空き家対策の推進	70
4-4 ごみの減量化とリサイクルの推進.....	72
4-5 脱炭素化に向けた取組推進	74
4-6 上下水道の持続可能な維持管理.....	76
4-7 地域の消防・防災力の向上	78
4-8 安心して暮らし続ける環境づくり	80
第5章 共に助け合い、協創する持続的な行政運営の むらづくり	82
5-1 あらゆる主体の参画・連携により地域を支える	82
5-2 持続可能な行政事務の実施	84
5-3 持続可能な公共財管理と財政運営	86
5-4 いつでも どこでも だれでもつながる	88
5-5 あちらこちらで進む情報の共有化.....	90
5-6 取り残されそうな領域をほっとかない	92
第3部 計画の推進に向けて.....	95
第1章 財政見通しを踏まえた計画の推進.....	96
第1節 財政の見直し	96
第2節 財政指標の見直し	99
第3節 健全な財政運営に向けた今後の方針	100
第2章 計画の進行管理と評価、見直し	102
第1節 計画の進行管理について.....	102
第2節 個別の行政計画との関係について.....	104

参考資料

1	策定経緯	105
	（1）策定の経過.....	105
	（2）西栗倉村総合振興計画審議会 委員.....	105
	（3）西栗倉村総合振興計画審議会条例	106
	（4）諮問・答申.....	107
	（5）村の現状	108
	（6）ワークショップ開催結果のとりまとめ.....	123
2	用語解説	132

西栗倉村総合振興計画

基本構想

生きるを楽しむ 百年の森林に育まれたむら

第 1 部

はじめに

第1章 計画の策定にあたって

第1節 計画策定の趣旨

本村では、昭和 55（1980）年度に総合振興計画を策定以来、5 次にわたってむらづくりに取り組んできました。平成 24（2012）年度から令和 3（2021）年度を計画期間とする「第 5 次西栗倉村総合振興計画」において『百年の森林に囲まれた 快適で人が輝く 自然と交流のむら “西栗倉村”』を目指してむらづくりを進めてきました。

この間、村の主要産業である林業を軸とした「百年の森林事業」を行い、西栗倉村の森、木を利用したむらづくり、新しい産業の創出を通じて、雇用の確保や人口の維持に努めてきたところです。また、平成 25（2013）年には環境モデル都市、平成 26（2014）年にはバイオマス産業都市、平成 27（2015）年からは「起業＋移住」をコンセプトとした「ローカルベンチャー（地方でのベンチャー的起業）スクール」を開始し、着実に人口減少の流れを弱めると共に、令和元（2019）年には SDGs 未来都市に選定され、持続可能な地域創出に取り組んできました。

合併を選択せず、単独での道を選択してから 20 年近くたち、「森林」を軸とした村独自の施策も根付きつつあり、分野は多分野にも展開し、移住者も増えその数は人口の約 1 割になりつつあります。一方、地域を取り巻く環境は、依然として人口減少・少子高齢化社会やこれまでの経験以上の気象災害への対応、本格的な脱炭素社会の到来、誰一人取り残さないを基本理念とした SDGs の実践など、この 10 年間は持続可能な社会への転換期として重要な 10 年となります。

あわせて、厳しい村の財政状況など解決すべき課題が山積みする環境の中、西栗倉村に関わる全ての人々が協働した地域づくりを進める必要があります。

全ての村民と訪れる人々が「いきいき」と「村に居続けたい、関わりたいと思うことができる」誰一人取り残さない持続可能な村に向けての指針として、「第 6 次西栗倉村総合振興計画」を策定します。

第2節 計画の位置づけ

平成 23（2011）年 8 月の地方自治法の一部を改正する法律（平成 23 年法律第 35 号）の施行により、法律による策定の義務はなくなりましたが、激変しつつある社会情勢にあって持続可能な地域社会の構築を目指していくために、むらづくりのための計画の重要性が今後一段と増すことから、平成 24（2012）年 9 月に「西栗倉村総合振興計画策定条例」を定め、総合振興計画を西栗倉村の最上位の計画として位置づけました。

また、施策の一体的な推進のため、基本構想及び基本計画に、「人口ビジョン」「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を組み込むものとします。

第3節 計画の構成と目標年次

この計画は、村の将来像を定め、むらづくりの指針となる長期的な展望にたった総合計画であり、村の将来像を実現するための基本目標を明示する「基本構想（10 年間）」、基本構想に示された基本的施策に基づき、分野ごとに施策を体系的に示す「基本計画（5 年間）」、基本計画に掲げた施策を実現するための「実施計画（5 年間）」で構成します。

年度 構成	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
基本構想 (人口ビジョン含む)	← 10 年間 →									
基本計画 (まち・ひと・しごと 創生総合戦略含む)	← 5 年間 →					← 5 年間 →				
実施計画	← 5 年間 →					← 5 年間 →				

※予算編成前に毎年度見直し

第2章 計画策定の背景

第1節 むらの歩みと概況

1. むらの概況

西栗倉村は岡山県最東北端に位置し、周囲の大半は岡山県美作市と接しています。また、1,000mを超える中国山地を介して、北は鳥取県智頭町、東の一部を兵庫県宍粟市と接する県境の村です。

標高は270～1,280mと起伏に富み、年間平均気温は約11℃、年間平均降水量は約2,000mmの積雪寒冷単作地帯にあります。

地形的には、東西9.0km、南北に13.5km、総面積57.93km²の峡谷型で、この峡谷型の中央を南に向かって清流・吉野川が流れ、これに沿って細長い平野部がひらけ、農地と集落が点在しています。

一方、総面積の93%は森林であり、このうち人工林は84%を占めています。この豊かな森林は村の貴重な資源であり、中でも村の最北端に広がる「若杉天然林」は、標高1,200メートル、面積約83haの中国山地を代表する森林として、氷ノ山後山那岐山国定公園の特別保護地区に指定されています。

地質的にみると、本村の北東部（大茅）と南西部（知社、筏津）の山間部は新生代の花崗岩類、それを挟むように中央部（坂根、長尾）は中生代の変成岩類から構成されており、特に花崗岩は、造岩鉱物の粒子が大きいと極めて風化しやすく、気温の変化などに対する崩壊が起こりやすいものとなっています。



西栗倉村の位置



2. むらの歩み

この地は古くから交通の要衝であったとの記録が残っています。「時範記」には 1099 年 2 月 14 日（旧暦）に因幡国司となり赴任する平時範が境根（坂根）に泊まり、翌日志戸坂峠で「境迎え」の儀式を行った様子が書かれています。

明治 22（1889）年の町村制の施行に伴い、大茅、坂根、影石（塩谷村は明治 5（1872）年影石村に合併）、長尾、筏津、知社の各村が合併して「西栗倉村」となり、今日に至っています。

また、昭和及び平成の合併には西栗倉村は参加せず、単独自治体として自主・自立の道を選択し、むらづくりを進めてきました。

また、この 10 年の間に、鳥取自動車道全線開通し、村を取り巻く環境が大きく変わり、村民などの行動範囲が飛躍的に広がっています。あわせて、村では百年の森林構想の着実な展開をはじめ、次世代に受け継ぐための取組を進めてまいりました。

① 百年の森林構想・百年の森林事業 ver.2.0

「百年の森林事業」は平成 20（2008）年に着想され、翌年から村の森林施業と民間による林業 6 次化で構成されています。細分化された民有林を村との森林長期施行管理に関する契約の締結により集約化、間伐施業の効率化を図ることで放置されてきたスギ・ヒノキ林の整備を行っています。

令和元（2019）年からは「百年の森林事業 ver.2.0」として、森林構成の再構築（森林 RE Design）を行い山林資源の多様化や、資金調達について民間から調達する仕組みとして森林ファンドの組成、再生可能エネルギーの普及を行っています。

② ローカルベンチャーの取組

ローカルベンチャースクールやローカルライフラボなど地域の外からヒト・コトを呼び込み、また、地域内からも起業や新規事業を促す取組を行い、地域経済の多様化・拡大を推進しています。

③ ソーシャルビジネスローカルベンチャーの取組

UI ターンを促進させ関係人口の拡大を図るため、地域社会資本の価値を掘り起こしサービスを創出する「ソーシャルビジネス・ローカルベンチャー」に取り組み、令和 2（2020）年 7 月に西栗倉村と企業などが共同で「一般財団法人 西栗倉むらまるごと研究所」を同村内に設立しました。

④ 西栗倉保育園・あわくら会館

西栗倉保育園は、安心安全な整備はもとより、地域の将来を担う子どもたちと、保護者、村民そして職員が世代を超えて受け継ぐ魅力あふれる地域の拠点として整備されました。

また、村民が“生きるを楽しむ”ための拠点施設として、あわくら会館・あわくら図書館が整備されました。この施設は、村民一人ひとりが生きることを楽しみ、学びやつながりを通じ、人や地域が育つための拠点となっていきたいと思いを込めた施設です。

これらの施設は、豊富な蓄積量を誇る村内の森林資源を有効に活用し、森林整備と施設整備の両立を目指し、整備されました。

●この間の歩み

年	主な取組
平成 16 年 (2004 年)	地域再生マネージャー事業開始 合併協議会の脱会を決定＝自主自立の決意
平成 17 年 (2005 年)	「地域新エネルギービジョン」策定＝エネルギー自給率 100%の村目標に
平成 18 年 (2006 年)	FSC（森林）認証取得（初回） 光ファイバー整備事業実施
平成 19 年 (2007 年)	「上質な田舎」を目指す構想づくり開始 雇用対策協議会設立
平成 20 年 (2008 年)	「百年の森林構想」着想
平成 21 年 (2009 年)	「百年の森林づくり事業」開始 「(株)西栗倉・森の学校（第三セクター）」設立
平成 24 年 (2012 年)	「第 5 次西栗倉村総合振興計画」策定
平成 25 年 (2013 年)	「環境モデル都市」選定 鳥取自動車道全線開通 ウッドスタート取組開始
平成 26 年 (2014 年)	「バイオマス産業都市」選定 西栗倉発電所「めぐみ」リプレイス、薪ボイラー黄金泉設置
平成 27 年 (2015 年)	ローカルベンチャースクール開始（林業関連の起業と移住） （2020 年現在、47 事業） 元湯リニューアルオープン、薪ボイラー元湯設置
平成 28 年 (2016 年)	広域連携ローカルベンチャー地方創生推進事業着手 薪ボイラーあわくら荘設置
平成 29 年 (2017 年)	地域熱供給システムの導入開始 （株）百森（第三セクター）設立

年	主な取組
平成 30 年 (2018 年)	村のキャッチコピー「生きるを楽しむ」に決定 ソーシャルビジネスローカルベンチャーを活用開始 平成 30 年 7 月豪雨災害 西栗倉保育園開園 西栗倉アプリ村民票開始
平成 31 年 令和元年 (2019 年)	SDGs 未来都市選定 百年の森林事業 ver.2.0 に着手 ふるさとづくり大賞（総務省）優秀賞を受賞 地域留学型大学「さとのば大学」プロジェクト参画
令和 2 年 (2020 年)	一般社団法人 Nest 設立 一般財団法人西栗倉むらまると研究所設立 あわくら会館・図書館オープン 森林信託事業開始
令和 3 年 (2021 年)	あわくら会館全館オープン 地域熱供給システム竣工 あわくらポイントサービス開始

第2節 時代の潮流

① SDGs 誰一人取り残さない社会、統合的な課題解決へ

平成 27（2015）年に国連持続可能な開発サミットが開催され、「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が採択されました。アジェンダは、人間、地球及び繁栄のための行動計画として「持続可能な開発目標（SDGs）」を掲げました。

この目標は、全ての国、あらゆる立場の全ての人を対象としています。

「誰一人取り残さない」という理念と、社会・経済・環境の様々な課題（17 の目標）に総合的に取り組むことが重要と謳われています。

「取り残されそうなこと」はないか、従来の分野を超えた横断的な取組やそれを実現する仕組みづくりが求められています。



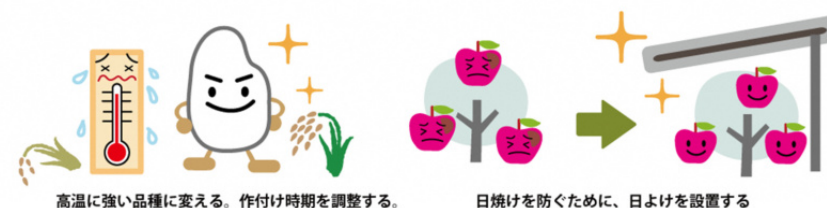
② 本格的な脱炭素化社会の到来及び気候変動影響への対応

平成 27（2015）年 11 月、気候変動枠組条約締約国会議（COP21）で採択されたパリ協定において、「気温上昇 2℃未満に抑える（1.5℃に抑えるよう努める）」ことが目標として盛り込まれ、またそのために、「今世紀後半に人為的な温室効果ガスの実質排出ゼロ」にする必要があるとされています。この動きを契機として、欧州や経済界が脱炭素社会に向けて舵を切りました。また、国内でも令和 2（2020）年 10 月に「2050 年までに脱炭素化社会を実現する」ことが宣言されました。

気温上昇を 2℃未満に抑えるためには、2030 年や 2040 年での一定の脱炭素化が求められており、一部のグローバル企業は 2030 年での脱炭素化を目指すことを掲げています。

一方、どれだけ対策を行っても、将来、気候変動影響は起こると予測されています。近年も、強い台風や集中豪雨、気温の上昇による熱帯夜の増加、農水産物の収穫への影響や暮らしへの影響など、その影響が顕在化しています。起こりうる将来に向けての「備え」が求められており、新たな産業や暮らしへ転換するなどの「適応」も求められています。

例 1：食を守るための「適応」



例 2：健康を守るための「適応」

こまめに水分補給したり、エアコンを適切に使い熱中症予防をする。



図 適応の例（気候変動適応情報プラットフォーム HP）

③ Society5.0 超スマート社会への動き

Society5.0 とは、狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱されました。

国はIoT（Internet of Things）によりサイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を連携し、モノやサービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供されると共に、社会システム全体が最適化され、経済発展と社会的課題の解決を両立していける社会の実現に向けて推進しています。

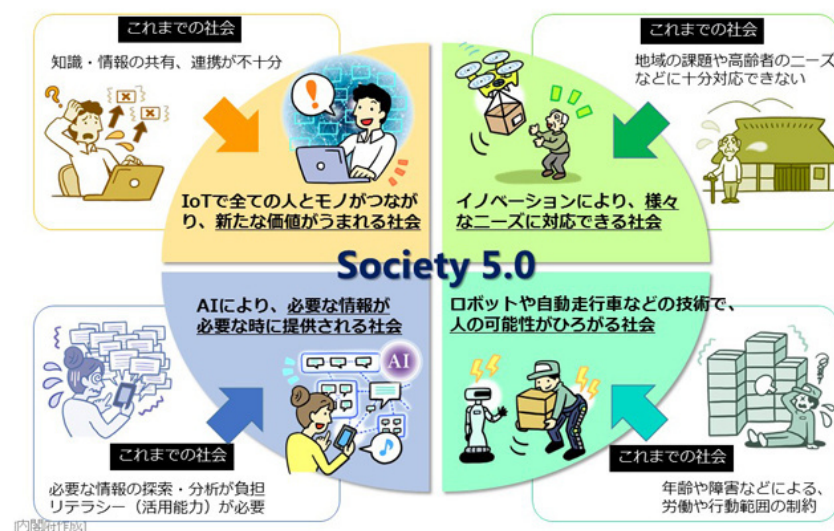


図 Society 5.0 で実現する社会（資料：内閣府）

④ グローバリゼーションから地域経済循環へ

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は世界を一変させました。これらの背景の一つとして、過度な「グローバリゼーション」があります。

新型コロナウイルス感染拡大は健康上の危機から経済災害へと大きく変化しています。

欧州では、経済復興において、従来型の復興ではなく、気候変動影響などに配慮したグリーンリカバリーという考え方が謳われています。また、ICTの加速的導入など新たな生活様式・事業様式といった社会の転換にもつながっています。

改めて、地域内の経済循環やつながりの創出、ICTや環境技術など新たな技術の導入と転換が地域にも求められています。

第3節 むらづくりへの想い～アンケート、WS より～

1. アンケート調査結果(抜粋)

村民のみなさんのむらづくりへの想いや村政に対する要望などを把握するため、15歳以上の全村民と村内の小学生・中学生に対しアンケート調査を実施しました。また、村民のみなさんのご協力を得て、現在は西栗倉村を離れて暮らしている村出身者の方にも調査を行いました。

① 村民(高校生以上)アンケート

- ▶ 対象者：15歳以上の全村民 1,250名
- ▶ 調査方法及び配布・回収方法：世帯へ世帯人員分を同封して、郵送を行った。なお、回収にあたっては、郵送での回収またはWEBでの回答とした。
- ▶ 期間：令和2(2020)年8月7日～9月11日
- ▶ 回収状況：回収数 389件(内、郵送回収 335件、WEB回収 54件)
回収率 31%

② 村出身者・関係人口向けアンケート

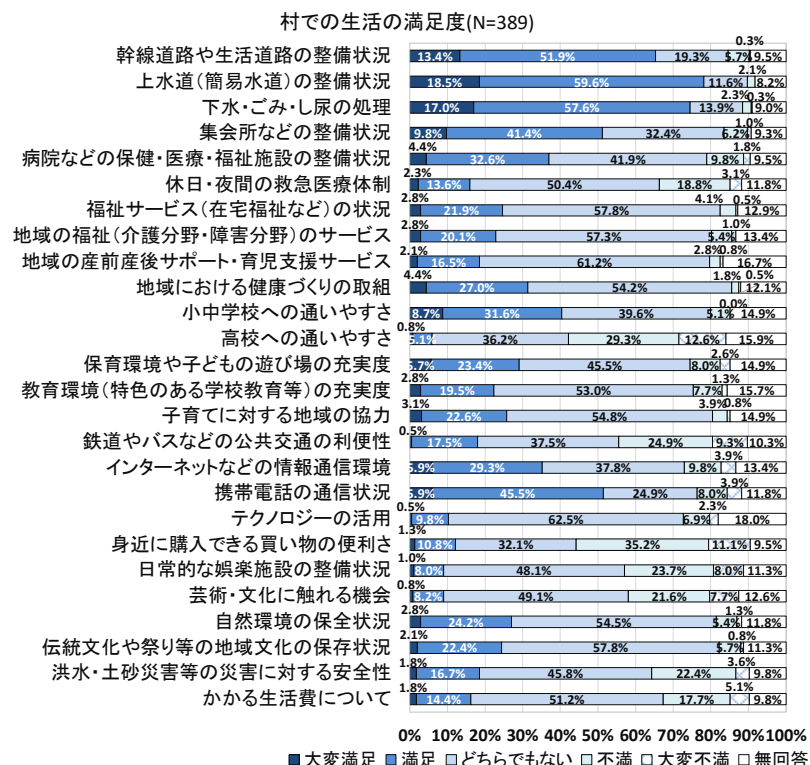
- ▶ 対象者：村出身者や村と関係のある方
- ▶ 調査方法及び配布・回収方法：村民アンケートへ同封して、郵送を行った。なお、回収にあたっては、郵送での回収またはWEBでの回答とした。また、アプリ村民票でのWEB回答も行った。
- ▶ 期間：令和2(2020)年8月7日～9月11日
- ▶ 回収状況：回収数 258件(内、郵送回収 47件、WEB回収 211件)

③ 小中学生向けアンケート

- ▶ 対象者：村内に居住する全ての小学5・6年生及び中学生 62名
- ▶ 調査方法及び配布・回収方法：学校にて配布・回収
- ▶ 期間：令和2(2020)年8月
- ▶ 回収状況：回収数 62件

村民 村での生活の満足度

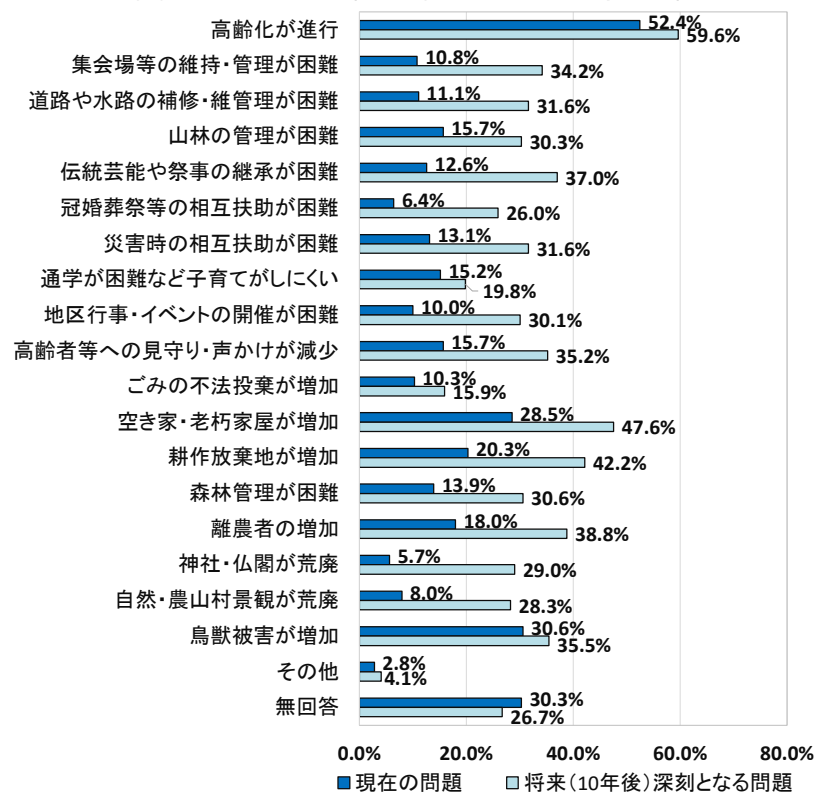
- ▶ 満足度が高い項目として、「上水道(簡易水道)の整備状況」(78.1%)や「下水・ごみ・し尿の処理」(74.6%)等があげられています。
- ▶ 一方、比較的満足度の低い項目として、「身近に購入できる買い物の便利さ」(46.3%)、「高校への通いやすさ」(41.9%)等があげられています。
- ▶ 過去のアンケート結果と比較すると、道路や上下水道などの生活インフラに関しては過去と同じく高い評価を得ています。一方「福祉サービス(在宅福祉など)の状況」といった福祉関連の評価は低下しています。



村民 地区・集落で発生している問題＜現在、将来＞

- ▶ 「高齢化が進行」は、現在(52.4%)・将来(59.6%)のどちらにおいても、項目の中で割合が最も高く、重大な問題であることが分かります。
- ▶ 現在の問題は、「鳥獣被害が増加」(30.6%)、「空き家・老朽家屋が増加」(28.5%)等があげられています。
- ▶ 将来の問題は、「空き家・老朽家屋が増加」(47.6%)、「耕作放棄地が増加」(42.2%)等があげられています。

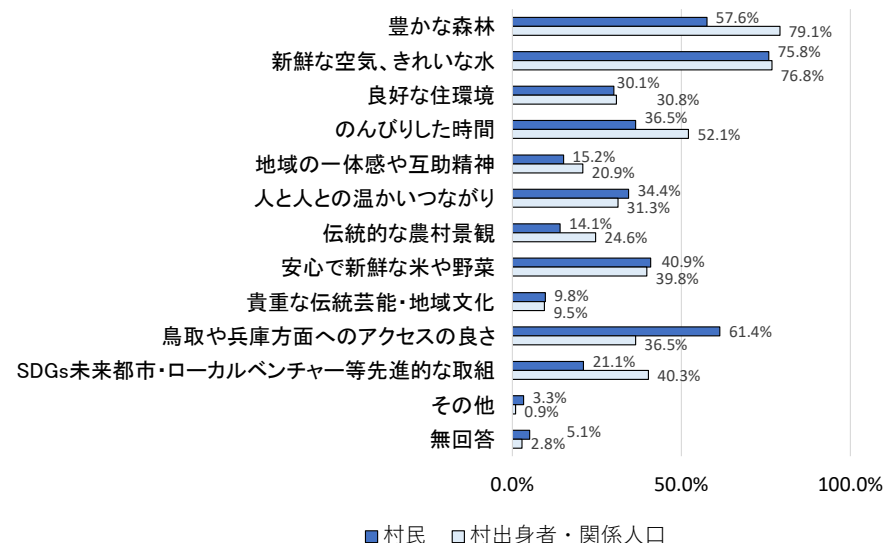
地区・集落で現在感じている問題と将来(10年後)深刻となる問題 N=389



村民・関係者 村の魅力

- ▶ 村民では、「新鮮な空気、きれいな水」(75.8%)が最も多く、「豊かな森林」(57.6%)等、村の自然の豊かさを魅力に思う方が多くなっています。また、過去のアンケートに比べて「鳥取や兵庫方面へのアクセスの良さ」(61.4%)に20%以上の増加が見られます。
- ▶ 村出身者や関係人口においても、「豊かな森林」(79.1%)が最も多く、「新鮮な空気、きれいな水」(76.8%)と村の自然環境に対する評価が高くなっています。「のんびりした時間」(52.1%)は村民(36.5%)よりも高い評価となりました。

村の魅力は何だと思いますか(村民N=389、村出身者・関係人口N=211)

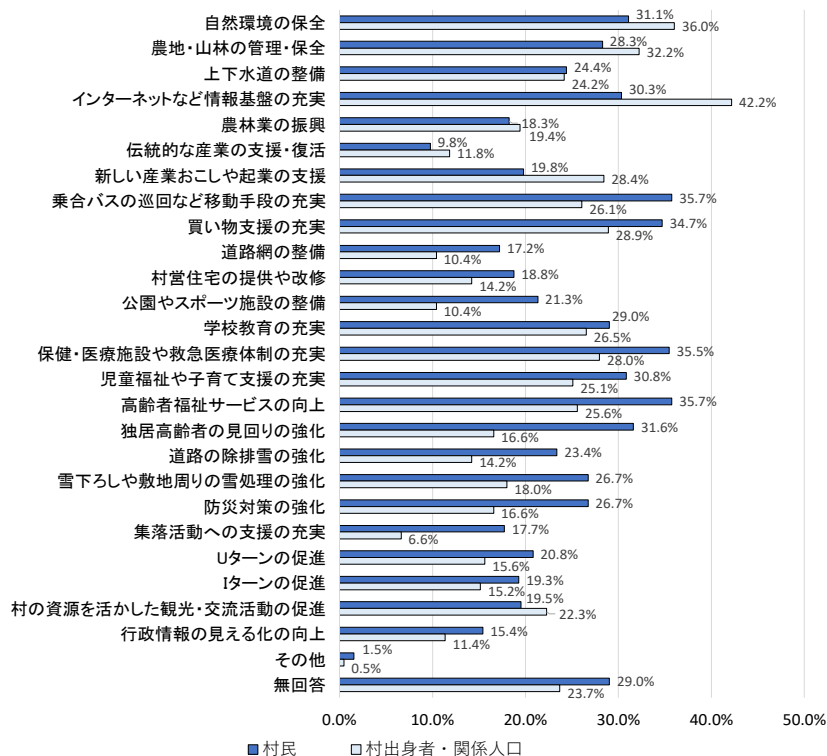


村民・関係者

村に住み続ける上で（帰村する上で）必要なもの

- ▶ 村民では、「乗合バスの巡回など移動手段の充実」(35.7%)、「高齢者福祉サービスの向上」(35.7%)、「保健・医療施設や救急医療体制の充実」(35.5%)があげられています。
- ▶ 村出身者や関係人口は、「インターネットなど情報基盤の充実」(42.2%)が最も多く、次いで「自然環境の保全」(36.0%)、「農地・山林の管理・保全」(32.2%)の順となっています。
- ▶ 過去のアンケートと比較すると、村民、村出身者や関係人口共に、「インターネットなど情報基盤の充実」の割合が増加しています。

村に住み続ける上で&帰村する上で必要なもの(村民N=389、村出身者・関係人口N=211)

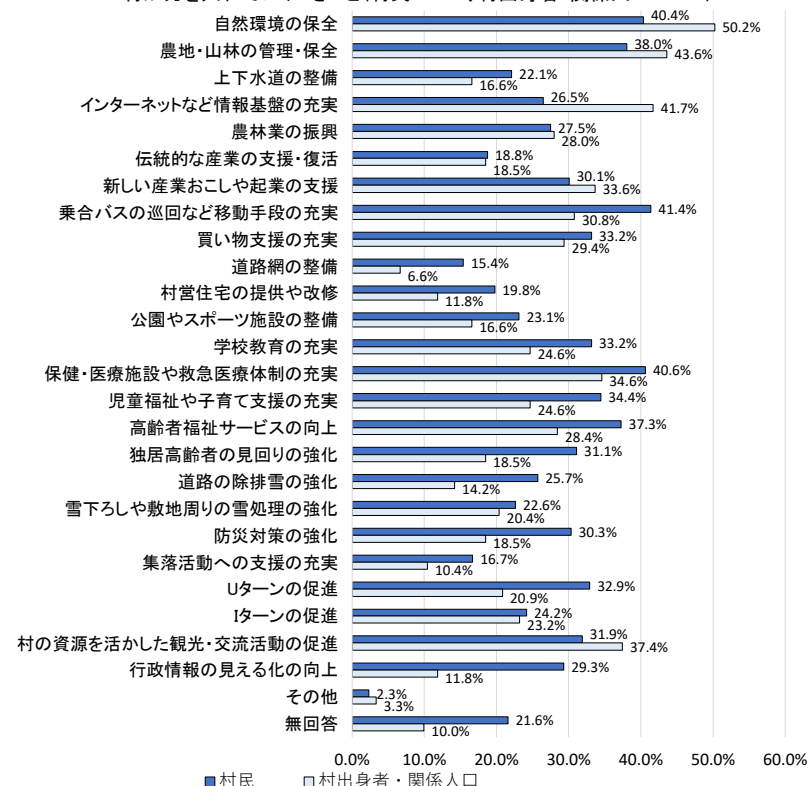


村民・関係者

村が力を入れていくべきこと

- ▶ 村民では、「乗合バスの巡回など移動手段の充実」(41.4%)、「保健・医療施設や救急医療体制の充実」(40.6%)、「自然環境の保全」(40.4%)があげられています。
- ▶ 村出身者や関係人口は、「自然環境の保全」(50.2%)、「農地・山林の管理・保全」(43.6%)、「インターネットなど情報基盤の充実」(41.7%)の順となっており、自然環境の保全に対する意識が高いことが分かります。

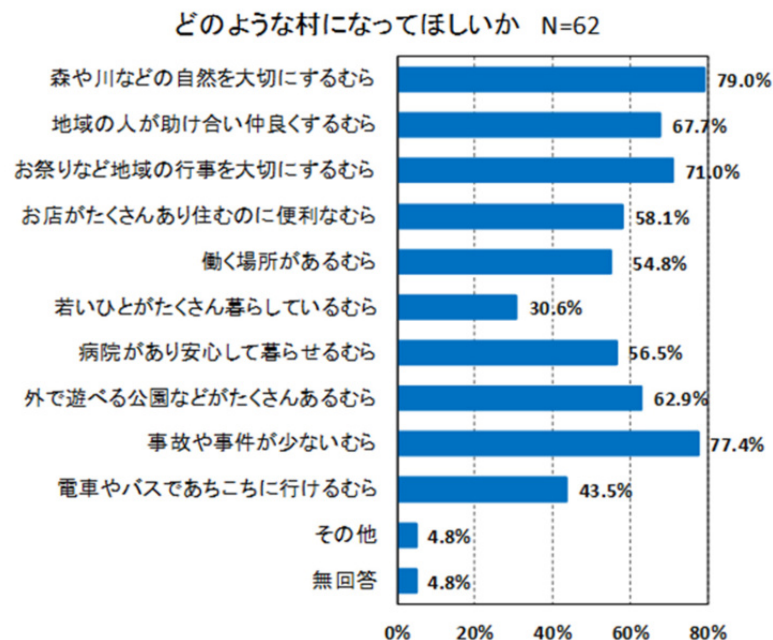
村が力を入れていくべきこと(村民N=389、村出身者・関係人口N=211)



小中学生 小中学生が望む村の将来

① どのような村になってほしいか

- ▶ 「森や川などの自然を大切にするむら」(79.0%)が最も多く、次いで「事故や事件が少ないむら」(77.4%)、「お祭りなど地域の行事を大切にするむら」(71.0%)、「地域の人助け合い仲良くするむら」(67.7%)となっています。
- ▶ 過去のアンケート結果と比較すると、「地域行事を大切にする」の割合が2割以上増加しています。



② あなたが思うワクワクする村の姿

- ▶ 村の小中学生への「あなたの目に浮かぶ、10年後の未来の村の姿（暮らしや仕事、環境（森林、農業、交通、子育て等）など）について自由に書いてください。また、10年後の村で、どんな自分になっていたいですか」の問いに対して、児童・生徒の回答を要約すると下表のとおりです。

表 小中学生が望む村の将来（アンケート結果要約）

社会	・誰もが親切で上手にかかわりあうようになっている村 ・誰もが安心、安全に暮らせる村 ・行事・文化を大切にする村 ・木を使った建物が増えている ・誰もが西栗倉を愛することができる村 ・日本一暮らしやすい村 ・色々な人が知っている村 ・みんなの笑顔と笑い声が響く、楽しい村
環境	・森林・自然がいっぱいの村 ・原生林が残っている村
人口	・人口の増加 ・子どもの数が増える ・Iターンの人が多い村
利便性	・コンビニやスーパーが欲しい ・遠くまで買い物に行かなくていい村 ・電車で通勤できる村 ・ちょっと都会になっている
仕事	・仕事をしたい
その他	・今の環境で満足している・変わって欲しくない ・将来の自分は村にいないと思う

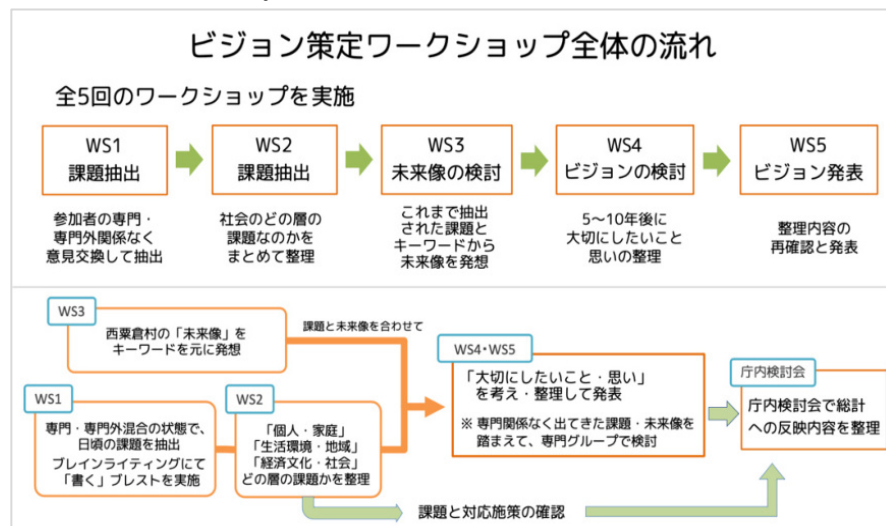
2. 第6次西栗倉村総合振興計画将来ビジョン策定 2030 村民ワークショップ

① ワークショップ開催の背景

第6次総合振興計画の策定にあたり、10年後の西栗倉村のありたい姿を村民のみなさんと一緒になって議論し、多様な観点から「ビジョン」として意見をまとめ、今後の方向性を定めるため、ワークショップを実施しました。

② ワークショップの概要

ワークショップは、西栗倉村の課題抽出から始まり、各自が描く未来像について議論した後、将来に残したい思いや残したいことを議論し、分野ごとにビジョンとしてまとめました。全体の流れを図にまとめたものを以下に示します。



<第一回ワークショップ>

西栗倉村において日頃から感じている課題、及び今後課題になりそうなことについて議論しました。6つのテーブルに分かれた後、ブレインライティングという手法を用い、各々が思う課題を書き出しました。課題を3つあげたら隣の人に回す、という作業を繰り返すことで、隣の人があげた課題に触発されて、日頃感じていたことを思い出すきっかけにしました。あげられた課題は、二回目のワークショップで活用するため、似ているものをグループ化・分類しました。

<第二回ワークショップ>

一回目であげられた課題について「個人・家庭」「生活環境・地域」「経済・文化・社会」のうち、どの層の課題なのかを整理することを目的として行いました。課題同士がどのように影響しあっているかをまとめるのに役立つ、「サービスエコロジーマップ」に整理しました。

<第三回ワークショップ>

10年後にはどのような西栗倉村になってほしいか、未来社会のキーワードを例示しつつ、思い浮かべてもらいました。「未来スケッチ」と題したワークシートに、課題と未来のキーワードから発想した、西栗倉村の未来像がまとめられました。課題は、これまでのワークショップで議論してきた土台をもとに、個人で取り上げ掛け合わせに活用しました。

<第四回・第五回ワークショップ>

これまで議論した「課題」と「未来像」をつなぎ合わせて整理し、最終的に総合振興計画の分野に近い分類での「ビジョン」を検討しました。参加者からお聞きした専門分野をもとにしたグループごとに検討を行い、今後も大切にしたい思いや大切にしたいことを洗い出し、ビジョンを検討するための要素としました。検討結果を次の頁以降に示します。

●村民から出された「分野ごとのビジョンと、課題・未来像・大切にしたいこと」（第四回・第五回ワークショップより）

※第一回～三回の開催結果については、参考資料に掲載しています。

【ビジョン】ドラえもんの医療

医療分野	課題	未来像	大切にしたいこと・思い	
	専門的な医療が（的確な）可能な病院が近くになく、選択肢も少ない	かかりつけ医に遠隔で診察してもらい、診療所、家に居ながら専門的な医療が可能	自分の体についてしっかりと自分も学ぶ治療や薬についても自分でも考えること	自分の情報を正確に伝える
	診療所でも可能な役割を村民が把握しておらず、不安に繋がっている	お薬を取りに行かなくても届けられ、より効率的な服用方法等の指導やサポートを得られる	遠隔だけでなく対面の医療	いつでも受診できる、声が聞ける医療体制。医師への負担
	医療従事者の地域格差（数・経験等）	医療機関内での情報共有。どこで受診しても自分にマッチした医療	より良く生きたいという気持ち	継続性のある安心できる医療保険や補償制度
	医療や薬の知識が乏しい	診療所（村内）と村外医療機関の役割が明確である	医師に対して自分のことを率直に遠慮なく伝えること。	当事者意識を（いつ自分が…）備えること
			誰でも簡易に使用・利用できる	

【ビジョン】最後まで生きるを楽しむ

高齢者福祉分野	課題	未来像	大切にしたいこと・思い	
	一人暮らしの高齢者	相続や行政手続き等の事務処理をわかりやすく、簡易に行えるサービス	当事者意識（自分ごと）	未来の自分たちで考える
		1人になることを望んでいない人以外は、家族や同居人、サポーター等と一緒に過ごす環境	高齢者の人間（人）としての尊厳	1つの個性と考えを尊重、自主性も
		見守り環境がIoT等により整備され、家族（近隣）が安心できる	見守る人や家族等への負担	持ちつ持たれつの関係や循環（気負いをなくしたい）
			不便も一つの生き方であるということ	
			医療に掛ける時間を人生のために使えること	家族が帰って来なくなる村

【ビジョン】自分らしくあなたらしく

障がい者福祉分野	課題	未来像	大切にしたいこと・思い
	生活する場所がない	関わる（知る）機会がない	自分らしく生きていける
	生活の場がない	有資格者でもコミュニケーションをとれるとは限らない	
	自分事感がない	そもそも知識がない	
	自立を促す仕組みになっていない	障害者が納税者になる	
		カテゴライズされない社会	

【ビジョン】小さなことからコツコツと！！

ESD,SDGs 教育分野	課題	未来像	大切にしたいこと・思い
	村民の理解	オンラインを使いこなして世界をつなげる	SDGs が身近に感じる（親しみ）
	世界に目を向ける機会が少ない	子どもたちから大人へ SDGs が普及している	みんなが参加できる
	村としてできることは何か考える		
	新しい事でイメージができない		
	一人一人が出来ることを何か考える		

【ビジョン】みんなちがってみんないい 多様性を認められる学校教育

学校教育分野

課題

部活が少ない

先生が3年くらいで入れ替わる
→継続しにくい

先生が固定されている

子どもが少ない(少子化問題)

先生が慣れたら変わってしまう

地域に関して良く知っている
先生が少ない

高校進学で村を離れる

未来像

地域の人が学習支援をする

教育移住(教育の魅力化)が進んでいる

先生と保護者が協力して子育てしている

市町村の交流

地域の人たちが学校教育に関心を持てる環境を考える

大切にしたいこと・思い

多様性を受け入れる

学校・地域・保護者が仲良し

しなやかな考え方

失敗を大切にできる

【ビジョン】ご飯をいつまでもおいしく食べる

健康づくり分野

課題

子どもたちが
バス通学

仲間が少ない

外で運動は不安

肥満率高め

運動する場所
が少ない大人も歩かな
さすぎ

未来像

通学時は15分
以上歩く健康につながる
アクション
→ポイント化バスは一定距離
以上出ない村内に歩いて
いる人がいるおいしい食材
が村でいつでも
手に入る

大切にしたいこと・思い

全身を使って
暮らすやりたいこと
ができる

心の健康

人と話して笑
ってられる

【ビジョン】西粟倉村らしさのある子育てを！！

子育て分野

課題

同級生がいるかいないかで出産時期を考えてしまう

出産＆子育てのメリットが村に少ない

第2子を考えられない

過保護すぎる

子育てが楽しく感じられない

相談する場所がない

未来像

親に時間的にゆとりがある

親に経済的なゆとりがある

親子がしっかり向き合える

みんなでできるママバイト

(子どもと) 話せる場所がある

親の一日保育士体験

日々楽しく笑顔でいられる

親子でキャンプ、自然での体験

お互いの良いところを認め合える関係性づくり

【ビジョン】いつでも、誰でも気軽に楽しむことができる

生涯スポーツ分野

課題

テニスコートがなくなった

テニススクールがない

雪が積もると外で遊びにくい

山を登る時、クマがこわい

好きな時間にスポーツや体を動かしたい(ジム、筋トレ)

スポーツを体験できる機会が少ない(弓道)

そもそもスポーツをやりたくない

誰でも楽しめるスポーツが少ない

村内にはプールがない

趣味の選択肢が少ない

未来像

VRで体を動かし、スポーツができる

自宅からでもVRを使ったスポーツができる

自然の中で楽しく体を動かせるアクティビティ

もっと美作、智頭とコラボ

村内の経験者を先生として教室をひらく

小中学校の体育の時間に大人も参加

村民 地区別体育大会の復活

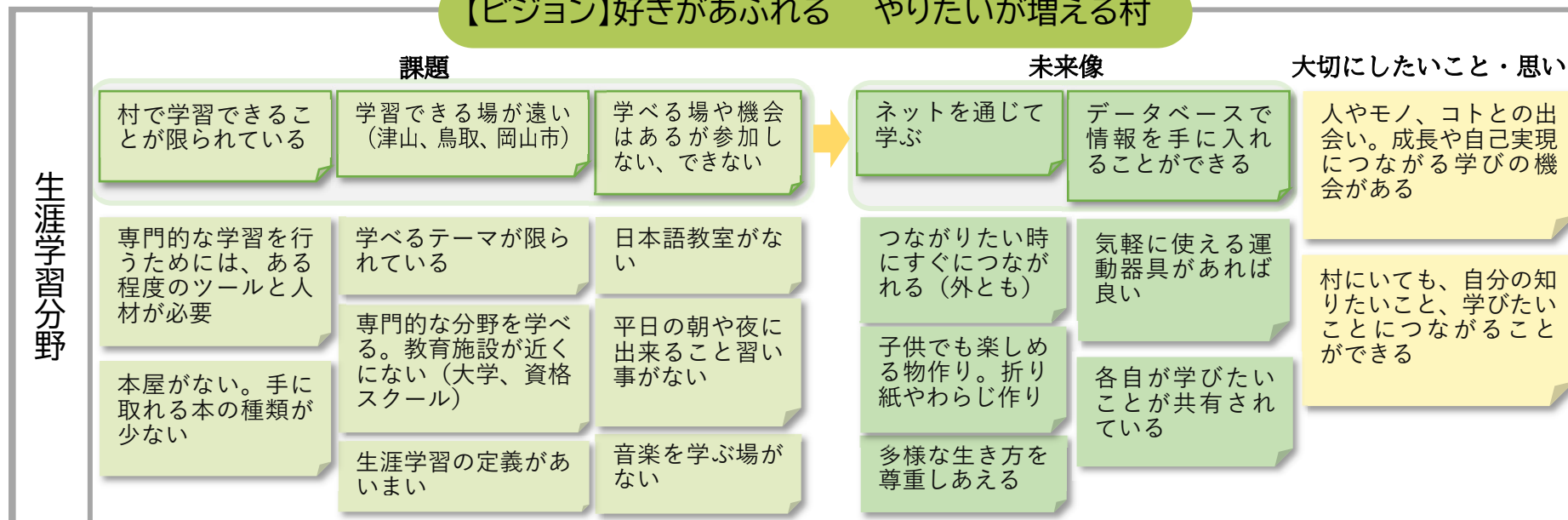
手軽にスポーツ

大切にしたいこと・思い

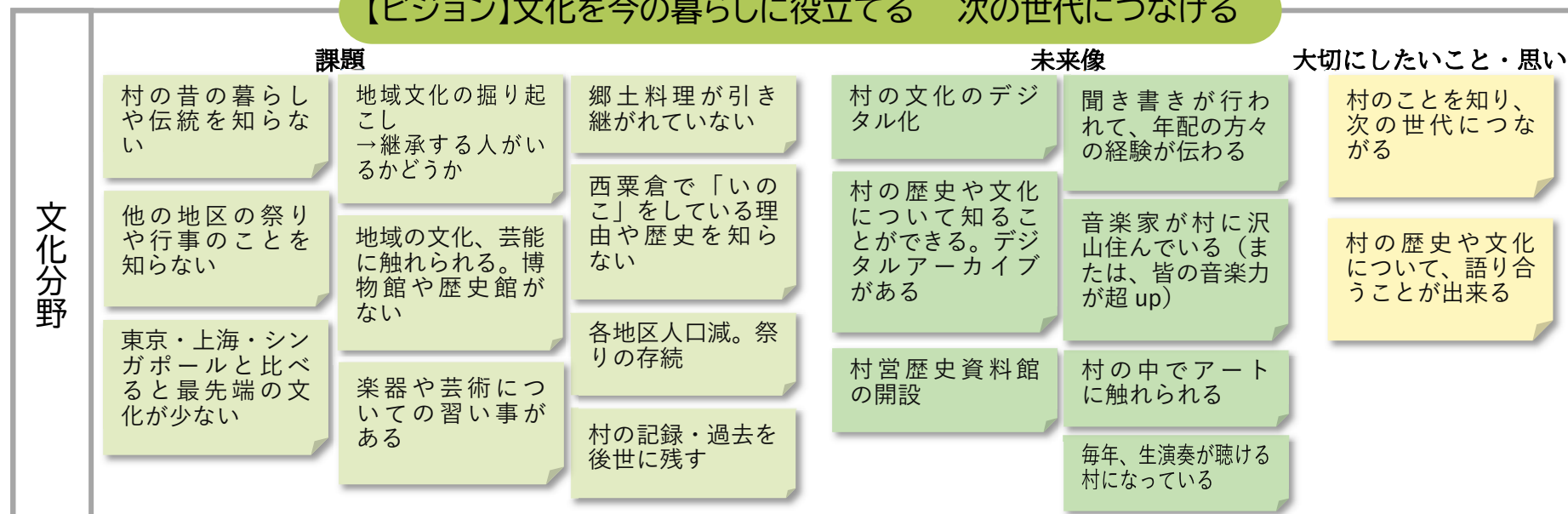
興味を持ったことを、気軽に始めることができる。体験することができる

楽しみ方の多様性

【ビジョン】好きがあふれる やりたいが増える村



【ビジョン】文化を今の暮らしに役立てる 次の世代につなげる



【ビジョン】地域の魅力を生み出す人材 集める・育てる・続ける

商工業分野	課題	未来像		大切にしたいこと・思い	
	コロナで客足遠のく 工場（働く場所）ない 夜に外食できる所	ワクチンが出来て、客足回復。道の駅がバスだらけ 働くに住むがパッケージされた提供 高速から見える所に紅葉とか桜とか	西栗倉 IC のランプをスムーズに 働く場所があって、村の子がおつとめする シェアとして色んな人が出店する（日替わり外売店）	自然や田舎の風景、四季を感じる（観光ネタを大事に） ローカルベンチャーの流れを止めない ヒメボタルを景観で勝負	産業の先駆者であり続ける 人の力だ 発想と行動力
	とりえがなかった田舎	なぜ今の村になった？			

【ビジョン】生産者・消費者どちらも笑顔に

農業分野	課題	未来像			大切にしたいこと・思い
	人手不足の解消、農家の高齢化 機械にお金がかかる 米の価格 獣害	スマート農業 1ターンの料理。地元の農家で New レシピ開発 西栗倉ブランド米 2倍だ 売り先（選択肢いっぱい）	中間業者をとばして、最終消費者と直結 公的支援 特産品（米でも可、西ならこれだ！） ぐるりと村中を囲む	いかに（米）を宣伝するか？ ファンドでお金を集める 特産品オンリーの専門店 規格が少々合わなくても売れる	生産者、消費者どちらも笑顔 うまい西栗倉の米 さらにおいしいお米を作りたい おいしい米を作る努力（皆農家に浸透）

【ビジョン】信頼される林業

林業分野	課題	未来像	大切にしたいこと・思い
	国産の木の需要	西洋列強に負けない林業企業（50年日本は遅れているので、質で勝負）	次世代の育成と待遇
	1万 m ³ を目指して、7,500m ³ という現状	しんどいけど、人気商売になる	魅力ある農林業（プレイヤー）にしていきたい
	2千 m ³ /年やって10数年	地元の大工さんが、地元の木を使った家をつくる	山を大事にほったらかしにしない（環境面含め）
	人手不足（機械化ももう限界では？）	林業が子どもたちの選択肢に	所有者（顧客満足）
	木材単価	外材より村産材の良さ	見学会で理解
	獣害（苗木食べられる）ネットが雪で倒れる	ヒノキ1本=車1台 簡単なプレカットの安さに負けている 現在、薄利多売みたいで、仕事が雑になってしまう 植林したところを絶対防御 ヒノキ@25,000~30,000	森林のSDGsはなんだ？

【ビジョン】潜在的な観光資源の掘り起こし

観光交流分野	課題	未来像	大切にしたいこと・思い
	滞在時間を伸ばすコンテンツが少ない ツアー客は来るが、お金が落ちない 観光資源を活用できていない	現在あるものを発掘し、観光コンテンツに 今あるものに新しいコトを 歴史的資源の発掘・タタラ跡 + 原生林 → 原生林と周辺のガイドツアー バスが入れるようにハード整備 細かいコンテンツはある、それらを組み合わせた。視察多い → ツアー → 鳥取の利を活かす	今あるモノを探し、伝え、発信、深める 西粟倉を知っている人が全国に増えてほしい

【ビジョン】交流・長く住める村

定住化分野

課題

空き家

補助対策不足
空き家が住める状態になって、増えたとしても定住につながるのか？住みやすい環境
村営住宅整備

高校が近くにない

マッチング不足
貸せない理由ある定住の定義
⇒村としての再定義。長く住むために必要なモノ・コト

未来像

多拠点の1つになる
半定住

大切にしたいこと・思い

西栗倉に長く住みたいと思う人がたくさんいる

人とモノ、情報を受け入れやすい気質は残したい

今いいと思っている環境を残していきたい

【ビジョン】誰もがマイカーを使わず 行きたい時に行きたいところに行ける

交通・交通安全分野

課題

マイカーがあり、運転できる人は「課題がある」と思わないこと自体が課題

高齢者の運転に戸惑う事がある

子どもが遊ぶ場所や学童に一人で行けず、親の送迎に頼る

代行業含め、運送業の選択肢が少ない

免許返納を促す。担保材料の不足(交通)

店まで遠い

村外に出る公共交通が少ない

駅へのアクセスが良くない

智頭急行があるのに、ほとんど活用されていない。特急が1本でも止まれば

車のスピードが出やすい環境にある(国道373号線)

自動運転の実証実験をこれからたくさん行って、先進地として真っ先に導入する

ライセンスが無くても、乗れる車があると良い

交通、移動手段の選択の余地がある

老若男女が色々な場所に行ける。買い物ツアーが、平日・土日問わず走っている

あわくら温泉駅にスーパーはくどが止まっていて、観光・視察客が村に来やすくなる

未来像

昼間か土日に動いていない車やマイクロバスなどをシェアリングで借りられる仕組みがあるといい

免許返納した人のメリットをどんどん増やし、シニアカーや高齢者が発達するパーソナルモビリティに乗れるようにする

定額タクシーや自家用車の代行ドライバーを活用した外出支援サービスがあって、免許を返しても動きやすい状態である

高齢者対象の安全運転講習会の開催など安全への意識付け

「気兼ねなく」使えるライドシェアの仕組みがあるといい(観光客+村民が乗りあえる)

公共交通利用による交通費の削減で生活レベルのアップ

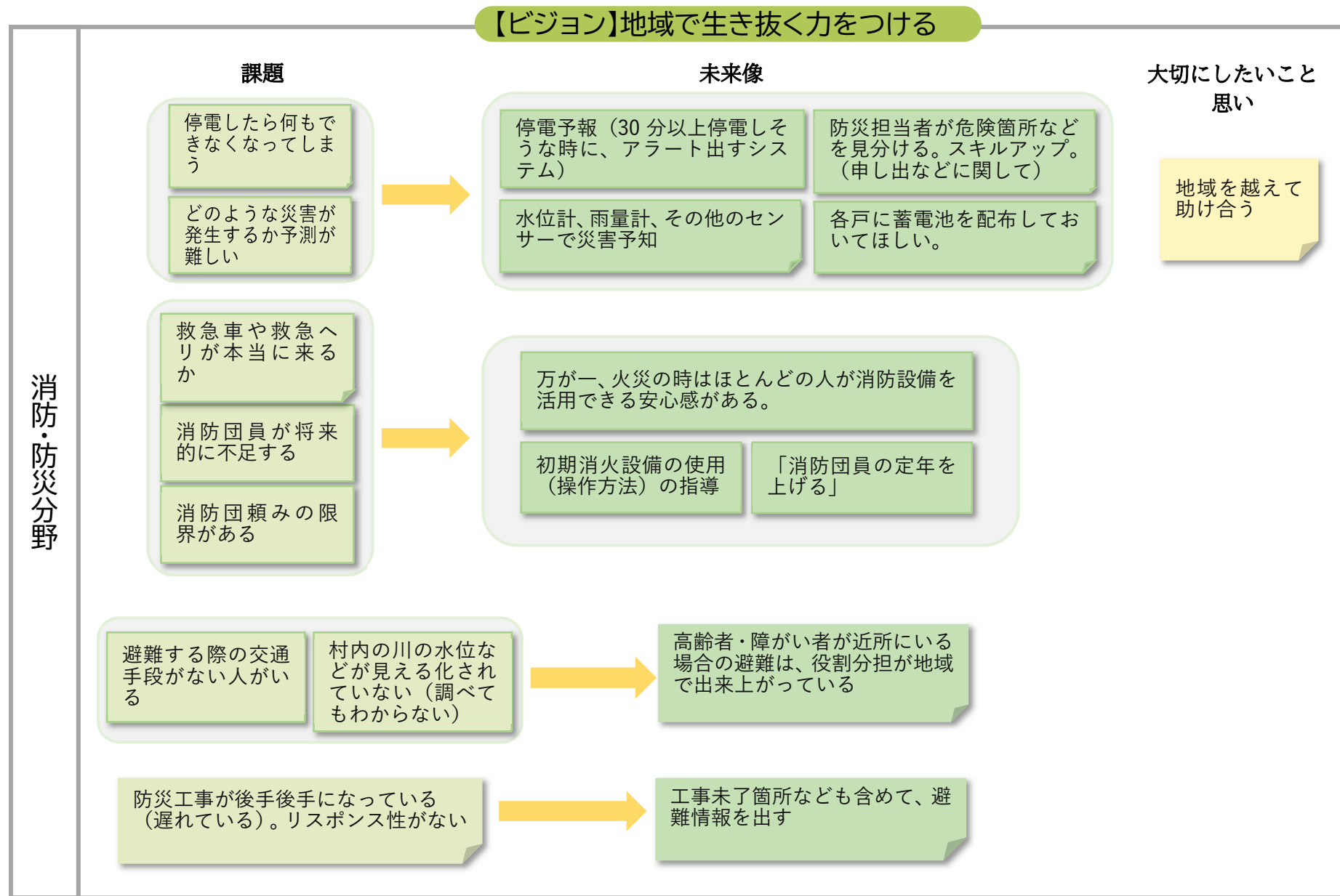
"生きるを楽しむ"

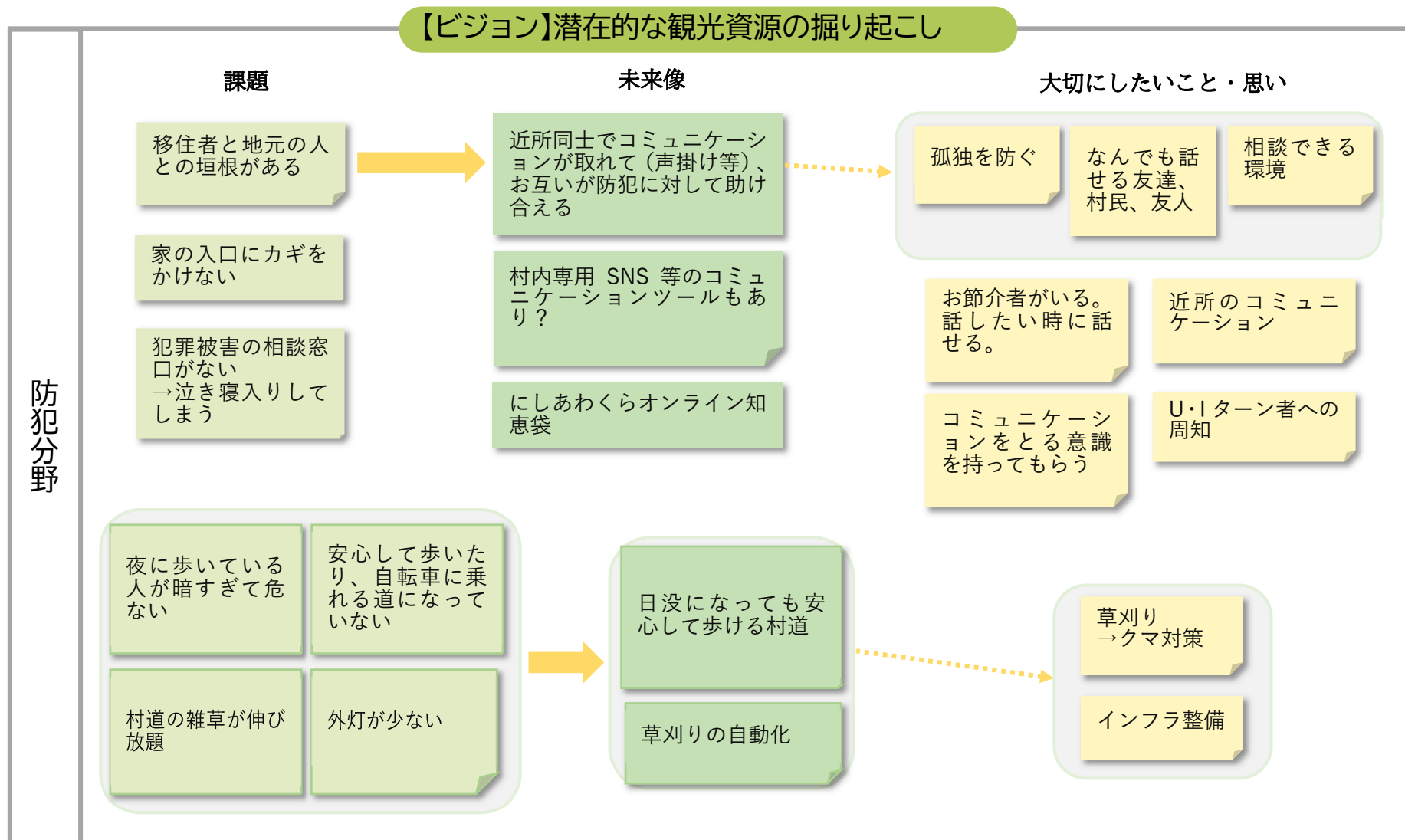
ワンストップで相談、解決できるモビリティセンター

大切にしたいこと
思い

縦割意識

みんなで考える





第4節 むらの課題

① 少子高齢化社会を食い止める一子どもに帰ってこいと言える村にー

近年のローカルベンチャーなどの取組により、移住者は村人口の約15%となり、人口は10年前の将来推計を上回る結果となっています。また、近年は、Iターン者と地域の事業者との交流も進みつつあります。

一方、村からの転出先を見ると、岡山県内の転出者が多く、美作市への通勤・通学での流出が多い状況です。また、村民のアンケート調査結果では、約半数が「自分の子どもに帰ってこいと言える村」とは思わない（やや思わないを含む）と回答しています。

これまでのIターン者を増やしていく施策を引き続き実施していくと共に、今後はUターン者を増やしていく取組を行っていく必要があります。

② 多様性を受け入れる、

そして村民と移住者、多世代の交流の場を創出する

ワークショップやアンケートでの10年後の西栗倉村で大切にしたいことを問う中で、一人ひとりが「生きがい」を持って暮らせること、多様な関わりや生き方が可能なことを望む声が多く聞かれました。

一方、それと同時に、地域で「支えあう」ことや「良好な関係づくり」を求める声も多く聞かれました。

今後、「誰一人取り残さない」むらづくりを進めていくためには、自主性・自発性によりあらゆる分野で多様性の創出を受け入れていくと共に、地域内のつながりを育む場を公民で生み出していくことも求められています。

③ ICTやIoTの進展による新たなつながりと

豊かさを生む社会を創出する

ICTやIoTに関する技術やサービスが日々進化し、社会に投入されています。これらの進展により、距離や暮らしの中の不便さを乗り越え、新たな関係性や暮らしを創出する可能性を秘めています。

村では、オープンデータ化や人的ネットワークの構築を目指して「西栗倉むらまるごと研究所」を設立しました。これらの取組を、「誰一人取り残さない」形で推進していく必要があります。

④ 地域経済循環を創出する

近年のローカルベンチャーなどの取組により、「森林」を軸とした産業が生まれてきました。また、そのことが地域の雇用創出や地域のブランディングにもつながってきました。

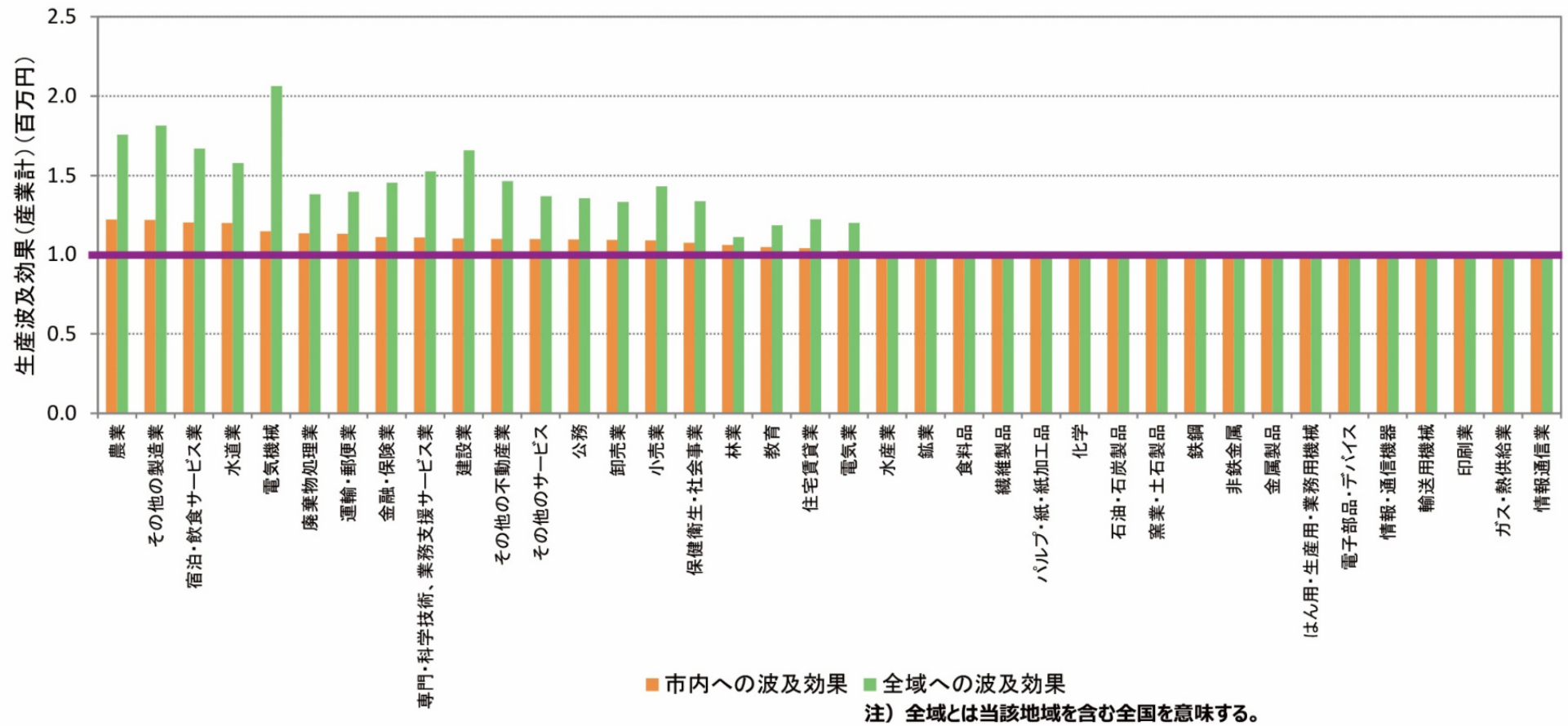
今後、新型コロナウイルス感染拡大を契機とした過度なグローバリゼーション社会への見直し、持続可能な地域という視点から、地域内経済循環を創出していくことが求められています。

具体的には、生産誘発額（各産業の消費や投資が100万円増加した時、域内の生産誘発効果）が高い、農業、その他の製造業、宿泊・飲食サービスへの投資と共に、地域産業の軸である「林業」について、生産誘発額を高める取組が求められます。

⑤ 統合的に取り組むことが可能な持続可能な行政運営へ

SDGs推進のためには、統合的に課題を解決していく必要があります。これまで、行政運営はそれぞれの課が課題に向けて、取組を進めてきました。今後、複数の課が協働で取り組む、また、ひとつの取組が複数の課の課題を解決するなど、統合的な課題解決が可能となる仕組みをつくっていく必要があります。あわせて、新たな技術やあらゆる主体とも連携しながら持続可能な行政運営の体制づくりが必要です。

生産誘発額



出典：環境省 地域経済循環分析（平成27（2015）年）

第 2 部

基本構想

第1章 むらの未来像

第1節 むらづくりの基本理念

西栗倉村のこれからのむらづくりにおいて、全ての分野にわたる基本的な考え方である“基本理念”を以下のとおり定めます。

基本理念 Ⅰ

全ての人の「生きがい」を育む むらづくり

子どもから高齢者までの村民、そしてむらづくりを支える交流人口を含めた全ての西栗倉村に関わる人が、その人らしさを認め、活かし、活躍できるむらづくりを目指します。

そして、西栗倉村だからこそ、生きがいを感じることが出来、住み続けたいと思えるむらづくりを目指します。

基本理念 Ⅱ

豊かな自然とのつながりを育む むらづくり

本村の大きな魅力であり資源でもある森林をはじめとした“自然”を今後も守り育てると共に、子どもから高齢者まで“自然”を身近に感じるむらづくりを目指します。

基本理念 Ⅲ

将来への希望を育む むらづくり

ICT やIoT などの基盤を整えながら、村が抱える立地的な課題を解決し、未来志向の安全で安心な暮らしのできるむらづくりを進めていきます。

基本理念 Ⅳ

村民が関わり合い、支えあう むらづくり

多様性を尊重しながらも、村民、移住者、多世代が関わり、支えあう誰一人取り残さないむらづくりを目指します。自立した自治体として健全で安定した財政基盤を確立し、健全で柔軟な行政運営を行います。

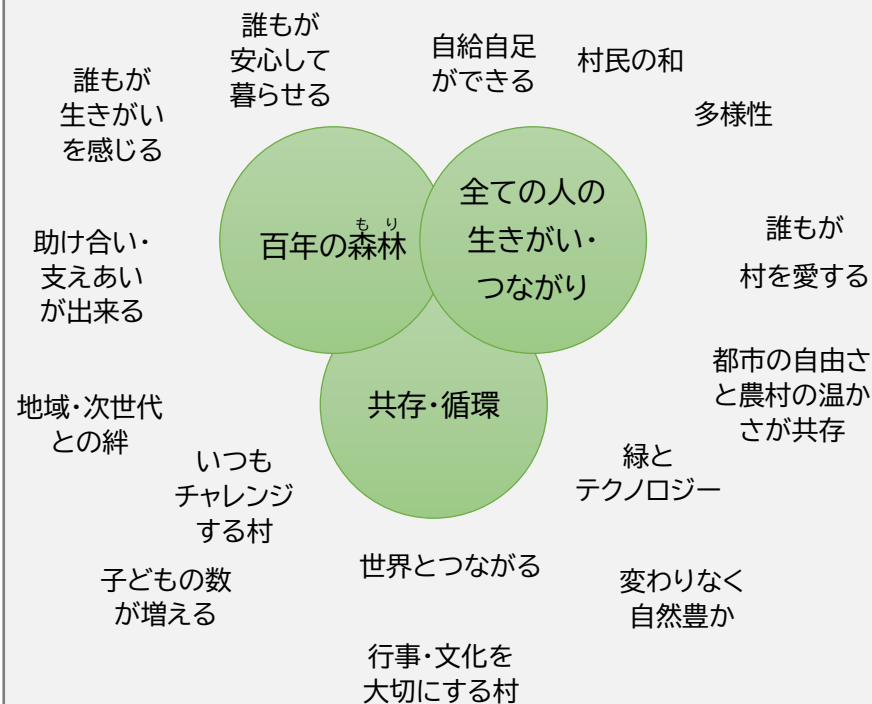
第2節 むらの未来像

“将来像”は、村が今後目指していく、こうありたいという姿を示すものです。前節の『むらづくりの基本理念』を踏まえ、西栗倉村の将来像を次のように定めます。

【将来像】

生きるを楽しむ 百年の^{もり}森林に育まれたむら

村民や関係者から出された10年後のわくわくする村の姿（一部）



第3節 分野ごとのビジョン

むらづくりの4つの「基本理念」を踏まえつつ、村の将来像『生きるを楽しむ 百年の森林に育まれたむら』の実現に向けて、行政の各分野で目指す姿を以下のように定めます。

保健・医療・福祉分野

最後まで自分らしく生きるを楽しむ むらづくり

- ▶ 一人ひとりが、自分の体と健康に対する知識を持ち、ご飯をいつまでもおいしく食べることができるむら
- ▶ 誰もが切れ目なく子育て支援を受けられ、多様な子育て環境の中で、子どもたちがのびのびと育つことができる、安心して子育てができるむら
- ▶ 高齢者や障がい者誰もが、地域社会を構成する一員として、地域でいきいきと自分らしく暮らし続けられるむら
- ▶ 市内外の関係機関の連携などにより、村で暮らしながら安心して医療サービスを受けられるむら

教育・文化分野

全ての村民が笑顔になる未来志向の むらづくり

- ▶ 多様な生涯学習の機会が創出されており、誰もが大きな生きがいや喜びを感じながら、いきいきと活動しているむら
- ▶ 多くの村民がそれぞれにあったスポーツや運動を日常的に楽しみ、健康的にいきいきと活動しているむら
- ▶ 村の文化や風習が地域への愛着や誇りとして浸透し、今の暮らしに役立て、次の世代につなげるむら
- ▶ 次代を担う子どもが、質の高い学びの中で生きる力を身につけ、心豊かに育つことができるむら

産業分野

地域の魅力を誇りにつなげる むらづくり

- ▶ 意欲ある人がやりがいを持って取り組める、高い生産性と付加価値がある農業ができるむら
- ▶ 森林価値を最大化し、森林の多面的機能が維持され、次世代も誇れる信頼される林業
- ▶ 村の地域資源を掘り起こし、磨きをかけ、発信し、みんなの笑顔とにぎわいがあふれるむら
- ▶ 地域の魅力を生み出す人材を集め、育て続ける、魅力と活力のある商工業が継続的に展開されるむら

生活環境・基盤整備分野

多世代・多様な人が暮らし続けることができる むらづくり

- ▶ 誰でも安全に、負担が少なく移動できる交通基盤が整っているむら
- ▶ 多くの人が住みたい、住み続けたいと思い、それを支える雇用環境と住まいが整っているむら
- ▶ 空き家が地域資源として活用されると共に、安全な居住環境へ改善されているむら
- ▶ 村民一人ひとりの環境意識が高く、ごみの減量化やりサイクルが進み、環境負荷を軽減しているむら
- ▶ 脱炭素化に向けて、省エネルギー・再生可能エネルギー対策が進んでいるむら
- ▶ 安心して利用できる上下水道が計画的に整備・更新されているむら
- ▶ 地域で生き抜く力をつけ、火災や災害に対する高い対応能力を持ったむら
- ▶ 一人で悩まず、誰かが助けてくれる、安心して暮らし続けることができるむら

協働・行政
分野共に助け合い、協創する持続的な行政運営のむら
づくり

- ▶ 誰もがそれぞれの立場や役割のもと、むらづくりに主体的に関わって
いける、みんなが支えあい協創するむら
- ▶ 村民のニーズに応じた効果的な業務が遂行され、職員一人ひとりの能
力が発揮された持続的な行政運営を行うむら
- ▶ 計画的、臨時的なあらゆる行政需要に対して、適正かつ柔軟に対応で
きる財政運営を行うむら
- ▶ 情報基盤を活用することで、村民課題の解決や生活の質的向上させ、
誰一人取り残さない地域づくりを実現しているむら
- ▶ 村民と行政の情報の共有化があちらこちらで進み、相互の厚い信頼関
係が構築されているむら
- ▶ 多様な価値観を受け入れ、差別や偏見がなく一人ひとりがいきいきと
個性を発揮できるむら

SDGs 勉強会を開催しました

持続可能な村の未来を考える場として、村民向けの SDGs 勉強会を開催しました。（令和2年（2020年）9月～令和3年（2021年）3月の間に計3回、あわくら会館 百森ひろばで実施）

この勉強会では、SDGs の原則である、「誰一人取り残さない」ということと「統合的に解決する」という2つを重点テーマとしました。1回目は、SDGs のポイントや地域の環境・経済・社会についての講義を行いました。2回目は金沢工業大学考案のカードゲームを活用し、「トレードオフ＝一得一失→取り残されそうな課題→リソースカード（資源）を活用すること→統合的に課題解決する」という流れを体感し、村の暮らしの中で「トレードオフ」が生じていることを「西粟倉村版トレードオフカード」として作成し、グループで解決アイデアを話し合いました。



第4節 人口の将来展望

① これまでの人口動向

村では、昭和 55（1980）年以降、15～64 歳の生産年齢人口が減少し続けていることに加え、65 歳以上の高齢者も平成 12（2000）年にピークに緩やかに減少しており、平成 7（1995）年以降は全体として減少傾向が継続しており、令和 2（2020）年に 1,421 人（住民基本台帳による）となっています。

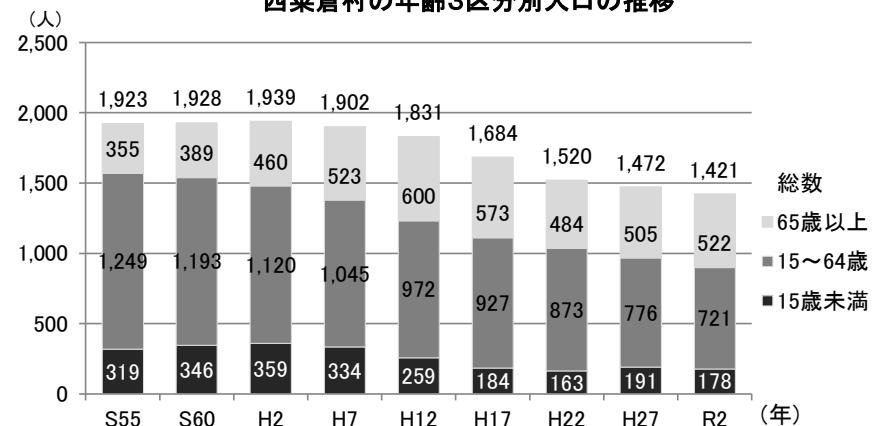
これは、平成 27（2015）年 8 月に策定した「西栗倉村百年の森林構想人口ビジョン」で目標として掲げた「令和 2（2020）年の総人口 1,493 人」には達していない状況ですが、平成 30（2018）年度に公表された国立社会保障・人口問題研究所による令和 2（2020）年の推計人口 1,379 人よりは多い状況であり、ここ数年で減少傾向が緩やかになったことが分かります。

15 歳未満の年少人口は、これまでは減少傾向にありましたが、これまでの積極的な移住支援策やローカルベンチャーなどの取組などにより、若い世代を中心に村内への「J」ターンが増加し、平成 27（2015）年には増加に転じています。

その一方で、20～40 代の若年・子育て層の近隣市などへの転出が依然として、進んでいる状況がみられます。

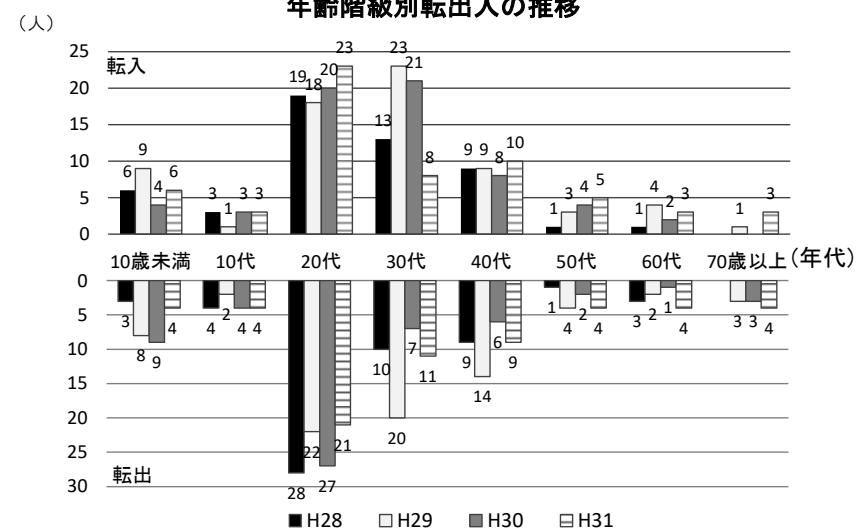
ただ、村に居住する村民だけではなく、仕事や、買い物などでの立ち寄り、地域づくり活動などへの参加・支援など、様々な場面で村と何らかの関わりを持って活動する人々（関係人口）が存在しており、そのような人々にも村は支えられています。

西栗倉村の年齢3区分別人口の推移



資料：昭和 55 年～平成 27 年は国勢調査、令和 2 年は西栗倉村

年齢階級別転出入の推移

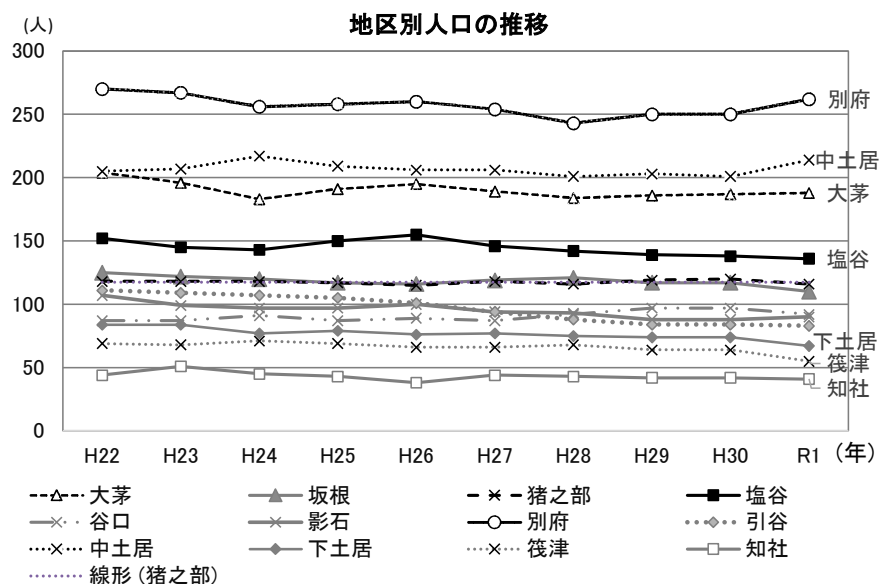


資料：西栗倉村

②地域別の人口動向

地区別人口の推移を見てみると、平成 27 (2015) 年以降、谷口地区、中土居地区及び猪之部地区においては人口が増加傾向にあります。

一方、引谷地区、下土居地区では減少傾向が続いています。影石地区も同様に減少傾向となっていました、平成 29 (2017) 年以降微増しています。



③人口の将来ビジョン

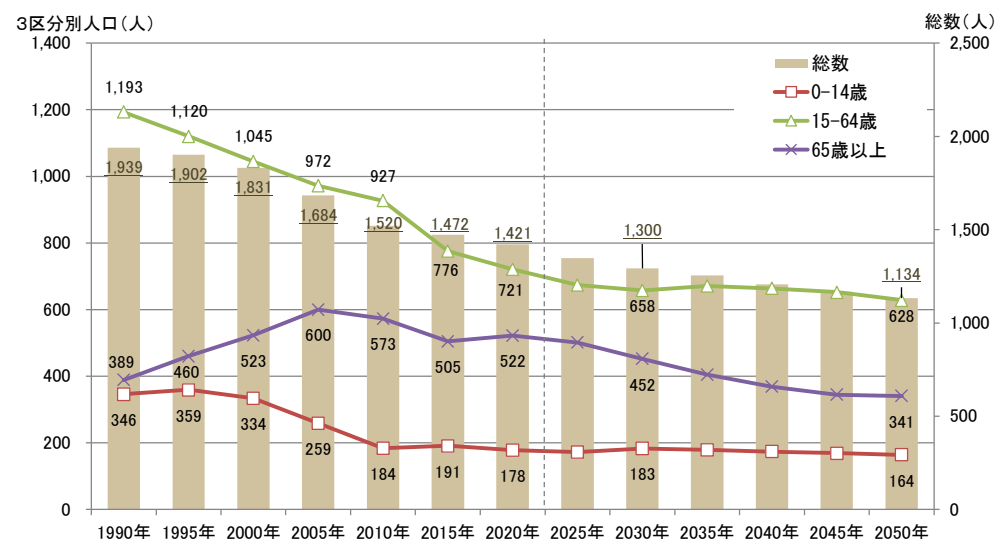
本村の人口は、新たに設定した人口ビジョンに基づき、令和 12 (2030) 年度の目標人口を 1,300 人とします。

これまで、「百年の森林構想」による移住政策や、ローカルベンチャーなどによる地域の仕事の拡大などにより、都市部などから転入する単身者や家族が増えてきました。一方で、子育てや生活環境の充実を求めて近隣地域に転出する若年世帯や、地域での暮らしをあきらめる高齢者も一定数いるのが現状です。

今後は、地域で暮らす村民が村から出ていかないような定住支援や子育て環境の充実など、誰もが村でいきいきと幸せに暮らせる環境づくりを進め、人口減少をなるべく食い止めていくことが求められます。

あわせて、全国的にも人口減少傾向であることから、定住人口だけではなく様々な人々の手により村の課題解決を図っていくため、村を訪れ、地域づくりや社会活動を行う人々である関係人口の創出も必要です。

令和 12 (2030) 年度の将来人口を 1,300 人とします



(参考) 将来の人口推計の考え方

①推計の方法

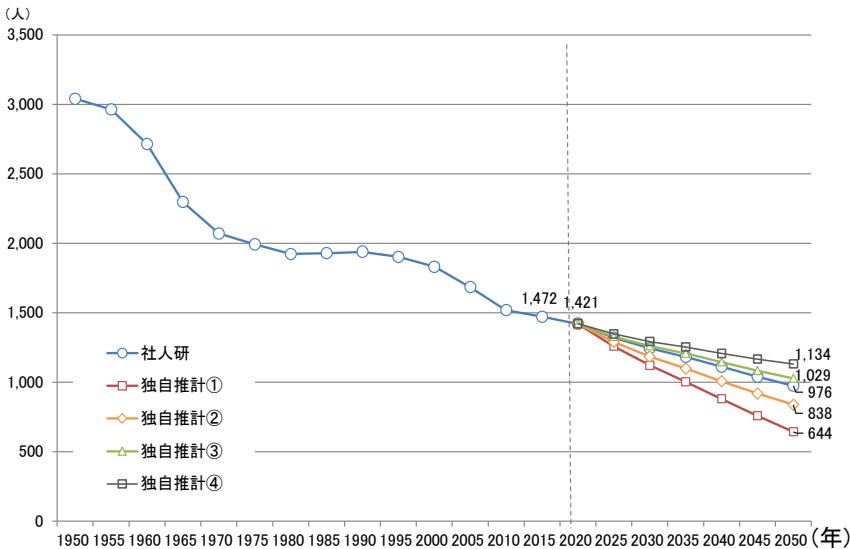
将来人口を推計するためには、自然動態（出生・死亡）と、社会動態（転入・転出）を設定することが必要です。各パラメータについて、以下の5つのパターンを設定して、将来人口を推計しました。

表 将来推計の考え方

推計ケース	自然動態	社会動態		
		転入	転出	
国立社会保障・人口問題研究所の推計結果	将来合計特殊出生率・生残率	H17-H27の人口動向を勘案した将来の純移動率	—	—
独自推計① 施策を行わない場合	生残率は上記と同様	社人研の推計値から、現状の移住転入超過分（5人）差し引き	—	高校卒業時9割転出 大学卒業時4割Uターン
独自推計② 現状の移住支援維持		単身5人、夫婦等1組、子育て世帯1組	単身3人 子育て世帯1組 夫婦1組	80歳以上4人転出
独自推計③ 現状の移住支援＋ 定住支援を強化			上記から、子育て世帯1組、夫婦1組転出抑制	上記から、80歳以上2人転出抑制
独自推計④ 現状の移住支援＋ 定住支援と子育て支援を強化	合計特殊出生率は1.54（H25-29）を維持と仮定	同上に加えて、子育て世帯1組追加		

② 推計の結果

社人研推計パターン及び独自推計①～④いずれの場合においても人口減少が進みますが、独自推計④の場合、2030年の総人口は1,293人、2050年の総人口は1,134人と推計されます。

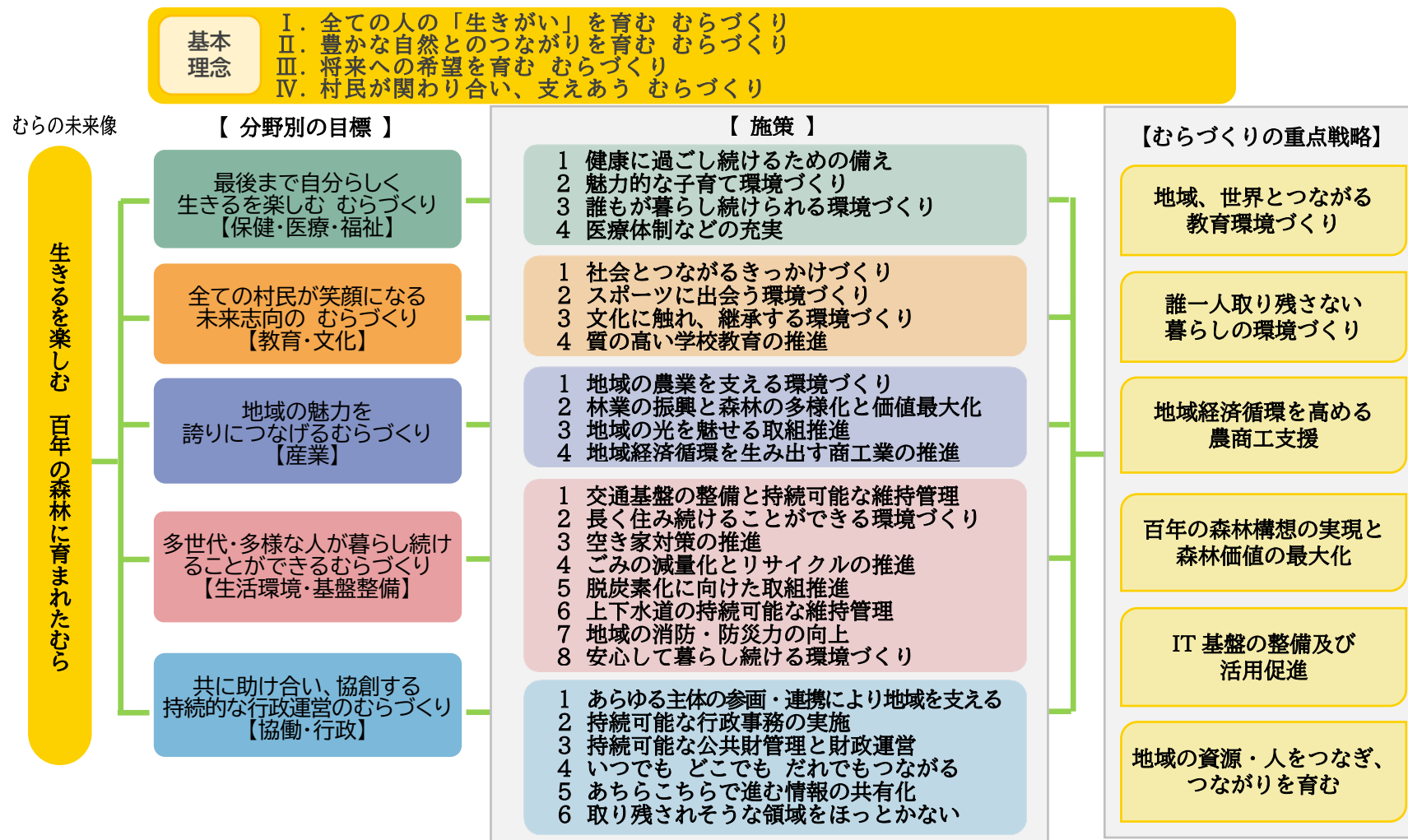


		総人口 (人)	年齢3区分別人口(人)			小学校1 学年人数 (人)	世帯数 (世帯)
			年少人口	生産年齢人口	老年人口		
現状(R2年)		1,421	178	721	522	12	577
10年後 (R12年)	社人研	1,245	175	606	464	12	506
	独自推計①	1,122	122	554	446	8	456
	独自推計②	1,185	135	604	446	9	481
	独自推計③	1,261	152	645	464	11	512
	独自推計④	1,293	183	658	452	14	525
2050年 (R32年)	社人研	976	148	470	357	9	396
	独自推計①	644	49	268	327	1	262
	独自推計②	838	85	421	332	5	340
	独自推計③	1,029	115	548	365	7	418
	独自推計④	1,134	164	628	341	12	460

第2章 むらづくりの基本方針

第1節 施策体系

むらづくりの4つの「基本理念」を踏まえ、将来像の実現に向けて分野ごとの「目指す姿」を定めると共に、それぞれの分野の施策を総合的に展開することにより、重点課題の解決を図ります。



第2節 SDGsの推進

令和元（2019）年7月、「SDGs 未来都市」に選定されました。令和元（2019）年9月に策定した「西栗倉村 SDGs 未来都市計画」では、SDGsに関する村の今後の取組について、また、今後取り組んでいくこととしている「自治体 SDGs モデル事業」について、とりまとめています。



① 2030 年のあるべき姿

今後 2030 年に向かって「brighten our forests, brighten our life, brighten our future!! 生きる を楽しむ」をキャッチコピーに、一人ひとりの人生にフォーカスした取組を広げていくこととしています。そうした取組により、様々な地域に暮らす人達が、それぞれの役割を担い、楽しみながら暮らすことができる「百年の森林に囲まれた上質な田舎」を 2030 年に実現していることを目指します。

★SDGsの構造整理を下敷きにし、西栗倉村のこれまでとこれからを整理。



②優先的なゴール・ターゲット

経済	社会	環境
 ターゲット 8, 3	 ターゲット 3, 8 ターゲット 4, 7	 ターゲット 7, 2 ターゲット 15, 2, 15, 4

優先的なゴール、ターゲットに関する KPI	当初値 2019 年 3 月	目標値 2030 年
ローカルベンチャー事業発生数	34 件	50 件
福祉系ローカルベンチャー事業数	2 件	4 件
教育系ローカルベンチャー事業数	1 件	3 件
再生可能エネルギーによる CO ₂ 削減量	20 t-CO ₂	3,500t-CO ₂
百年の森林事業森林施業面積	1,580ha	約 3,000ha

③自治体 SDGs 推進モデル事業

「森林ファンドと森林 RE Design による百年の森林事業 ver.2.0」

三側面	名	目標値(2021 年)
経済→環境	年間木材搬出量	約 8,000m ³ /年
環境→経済	自然資本系ローカルベンチャーの売上	8.4 億円
経済→社会	40 代以下のローカルベンチャー事業による移住者	15 人/年間
社会→経済	ソーシャルビジネスローカルベンチャー（教育分野）の創出	3 事業
社会→環境	さとのば大学の延参加人数（地域創造人材の育成）	20 人/3 か年
環境→社会	森林事業、再生可能エネルギー関連事業に関わる UI ターン者数	10 人/3 か年

第3節 将来像の実現に向けて

1. 総合振興計画の運用管理

総合振興計画は、基本構想・基本計画・実施計画によって成り立っています。したがって、基本構想で定めた村のありたい姿、目指す姿を実現するためには、戦略的な視点を持って、基本計画及び実施計画に掲げる施策・事業を適切に実行していく必要があります。

このため、以下の方針により、総合振興計画の運用管理を行います。

①重点戦略に対する施策の重点化及び

公的なチャレンジを支える仕組みづくり

限られた予算をより有効に活用しながら、村の将来像の実現に向けて戦略的に取組を展開するため、基本計画で掲げる重点戦略に関わる各分野の施策・事業を重点化し優先的に予算を配分します。

一方、これまでの取組と同様に国のモデル事業など多様な資金を活用しながらチャレンジを進めていきますが、全国的なモデル性だけでは測れない、地域の粘り強い取組により新たな仕組みや制度づくりが求められる分野についても、チャレンジできる仕組みづくりを検討します。

<公的なチャレンジに関する要件例>

- 将来のあるべき姿が明示されている
- あるべき姿に向かい、長期的な検証が必要（地域の交通弱者の足の確保など）
- 国の補助等の対象ではない
- 職員からの提案
- 分野統合的な課題解決や持続可能な行政運営につながる

など

②事業評価による重点施策・事業の見直し

村が行う全ての事業の進捗管理を適切に行いつつ、特に重点戦略に関わる施策・事業については、政策目標の達成状況を毎年度検証した上で重点化すべき施策・事業の見直しを行い、翌年度の予算編成に反映します。

③運用管理のプロセス・結果の透明化

施策・事業の運用管理については、毎年村民のみなさんにそのプロセスや結果をお知らせしながら推進していきます。

さらに、社会経済情勢の変化などに合わせて計画を見直す場合も、「なぜ見直しが必要か」「どのように見直すか」を明らかにし、これらを明確にして行います。

④行政運営の適正化

以上のような適切かつ戦略的な施策を展開していくため、行政職員のマネジメント能力の強化や資質の向上を図り、行政の組織力を最大限に発揮できる体制づくりを進めます。

2. 行政・村民・地域・団体・企業それぞれの役割

将来像の中心にあるのは、村の様々な場面で、生きるを楽しむ「人」です。この場合の「人」とは、村の将来を支える「主体」という意味であり、決して村民のみさんだけを指すものではありません。行政や地域、NPOなどの団体や企業などもまた、これからのむらづくりを支える「主体」です。

総合振興計画は、本村の今後のむらづくりの基本的な方向性を定めたものですが、全て行政だけで実施できるものではなく、村民はもとより、地域や団体、企業などの協力と連携、協働が不可欠です。

本基本構想が全ての主体にとって将来像の実現に向けた行動指針となるよう、村民、地域、団体・企業及び行政それぞれが役割を果たし、みんなでむらづくりを進めていくことが大切です。

村民の役割

村民のみなさんは、むらづくりを支える大切な主役です。一人ひとりが、地域活動をはじめ様々な行動を通じて、むらづくりに取り組むことで、将来像に向かって進むことができます。

特に村の子どもたちは、次代の西粟倉村を担うかけがえのない存在であり、本村の未来を築いていく大切な宝です。子どもたちが村に住み続けたい、将来帰ってきたいと思えるよう、子どもから大人まで幅広い世代がつながりを持ちながら、むらづくりに主体的に関わることが大切です。

地域の役割

「人」が村の様々な場面でいきいきと活躍するためには、地域社会において、人と人との心が通いあい、温かな絆で結ばれていることが大前提となります。

各地域では、これまで村民同士が助け合いながら様々な問題に立ち向かってきました。今後も、地域の持つ力、コミュニティの大切さを再認識し、村民、移住者、多世代のあらゆる人が関わり支えあう中で、地域の連帯感を醸成すると共に、将来像という共通目標に向けて一丸となって取り組むことができます。

団体・企業の役割

子育てや福祉、地域づくりなど様々な分野で活躍する団体やローカルベンチャー、むらの産業を支える企業は、村民や地域、行政とともに、その専門性を発揮してむらの課題解決に取り組むなど、むらづくりに積極的に参画することが期待されます。

行政の役割

総合振興計画に基づき、総合的かつ計画的に事業の推進や調整を図ります。

また、村民や地域、団体・企業等の主体的なむらづくりの取組を支援するとともに、様々な立場の意見を取り入れ、各主体と連携して、みんなでむらづくりを進めます。

